

発行所
 東京都江東区
 越中島3-3-1
 東京都立第三商業
 高等学校同窓会
 編集 同窓会事務局
 東京都江戸川区
 南小岩7-38-11
 電話 (3658)6341
 (中野)

三商同窓会報



No.43



ご挨拶
 会長 木戸隆吉

アテネオリムピックが、八月十三日より始まります。同窓生の皆様には、ご健勝にてご活躍のことと存じ上げます。三商はこの記念すべき年に、創立七十六周年を迎え、同窓に堪えません。この三月に卒業生百六十四名が同窓会員になられ、総数二万四千三百三十二名となり、同窓会は大きな存在となりその自主的運営に、新役員一同力を合せて、頑張っているところであり、一方学校の方は、都の通達が頻繁に行なわれ、学校内に於ける喫煙及び飲酒の禁止、教頭は副校長と改名され、大きく変わってきました。在校生のクラブ活動は、女子バレーのベスト8入りを始め、バスケット、柔道、ブラストバンド、男子のサッカー、硬式野球、テニス等各クラブが素晴らしい活躍ぶりを見せております。今年度卒業生の就職率100%、大学、専門学校への進学も順調に推移したことは、誠に喜ばしいことであります。新入生については、競争倍率が高くなり、推薦入学で三倍強、一般募集で一、四倍となり、レベルの高い生徒が二百十四名入学されました。これも偏に校長先生始め、諸先生方の広報活動と同窓生の社会における貢献度の評価が高まってきているものと認識しております。来年からは少子高齢化の影響で、かなり生徒数が激減するものと推測されます。学制の改革、

都の通達により画一化されてきている現状の中で、三商は金太郎飴的にならず、独自の個性的な魅力ある学校を堅持されんことを願うものであります。

さて、同窓会は、学校の発展に目を向けながら、来る十月二日(土)に、日比谷公会堂で行われる「校歌祭」に参加し、「三高健児ここに在り」と声高らかに歌い上げ、数あるナンバースクール校の中でも、多数の母校愛に燃える参加者と特異な存在で評価を得ようとして、頑張るつもりです。又昨年の十一月には、同窓会が始まって以来の「三商OB団体交流会」を催し、好評を得ました。三商には創立以来、築地魚河岸の業界で活躍する団体「三水会」があり、木場の材木商から成る「木樺会」、公認会計士、税理士の資格のある方の「三商会計人会」等の集り、併せて十

団体の方々が一堂に会し、その健闘と健闘を讃え合い、一夕を過ごすことが出来たことは、画期的なことであり、正に三商の誇りであったように感じました。又同窓生の中には、有名大学の学長、教授、一、二部上場企業の社長、重役、起業家の方々も多く、中小企業の中にあっても中核にある企業が多く、官界における活躍振り、特に都庁における三商出身者も多いと聞いております。このように同窓生は、あらゆる各界の中で中心的な役割を果し、社会より注目を浴びている状況でございます。そう云う意味からも同窓会の会合には、一人でも多くの方々のご出席を頂き、交流を深めていただき度く、お願い申し上げます。次に今年の主な活動ですが、別掲の如く、十月二日(土)は前記「校歌祭」の他、十一月三日(水)祝日には、二年ぶりの「同窓会総会」を催します。(詳細別記)

特に今年の総会は、午前十時三十分頃から始めて、午前中在校生の「ダンス」「ブラストバンド」寸劇等を予定し、午後から総会が始まり、アトラクションも用意し、料理、飲み物も豊富に取り揃えて、皆様のご来場をお待ち申し上げております。尚七十期卒(平成十五年卒)七十一期卒(平成十六年卒)の新人同窓生は会費無料のご招待となっております。お友達お誘いの上ご出席下さい。尚申込みは評議員(各期代表者)を通してまとめて同窓会事務局へお願いします。尚未だ一度も同期会を開催されていない期がありましたら、同窓会でもお手伝い致しますので、事務局迄ご連絡いただき打合せをして下さい。

おわりに、詩人であり書家でもある「あいだ、みつを」様の言葉を紹介し、人生の糧になれば幸いです。「その時の出逢いが、その人の人生を根底から、変えることがある、よき出逢いを」そして話しの中で「人生は、バトン」と申されたことがある。今、私達同窓会役員は、諸先輩の培われた「同窓会のバトン」をしっかり守り抱え、後者に渡すべく責務を全うして、任期平成十七年三月末日迄走り続けたいので、沿道からご声援、ご叱責を賜らんことを切望し、あいさつと致します。

校歌祭

日時 平成16年10月2日(土)
 場所 日比谷公会堂
 集合 午後2時

同窓会総会

日時 平成16年11月3日(祝)
 場所 ティアラこうとう
 時間 午前 在校生クラブ紹介
 午後 総会・懇親会

三商の現況が
 判ります
 ホームページアドレス

www.daisanshogyo-h.
 metro.tokyo.jp/



学校長 青木孝雄

いあいさつ

さわやかな夏が続く今日この頃、卒業生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃より母校の教育活動にご支援・ご協力頂きまして、大変有難く心より厚く御礼申し上げます。

平成十五年度は無事終了し、平成十六年度順調なスタートが切れました。今年度は新しい学習指導要領の基に教育課程を編成し、一、二年生が取り組んでいます。二年生においては、大幅な選択を導入し、生徒の興味・関心に基づいて科目を選ぶシステムを取り入れ、生徒たちは、熱心に取り組んでいます。現在三学年のみ商業科、会計科の学年になっております。平成十七年度からは全学年商業科だけの商業高校になります。

平成十五年度は募集対策に大変力を注ぎ、成果をあげました。体験入学を四回実施し、先生方は、中学校を約五十校訪問し、本校の教育について、説明しました。八月には中学との連携事業として、深川第四中三学年、百六十名を本校に招き、一日授業を実施しました。東京新聞が取材し、大きく報道していただきました。

その結果、推薦選抜応募倍率は三、六倍、一次学力選抜は一、四

倍、後期学力選抜は三、五倍になり、中学生に選ばれる三商と変わり、入学生のレベルも向上し、今後大いに期待が持てます。各種検定試験では、全商簿記二級合格者が大幅に増加し、三冠王が二名と四冠王一名が生まれました。

学習活動では、体験的授業を多く取り入れ、門前仲町商店会において、インターシッピングを実施し、販売実習を行い貴重な体験をしました。三学年の選択家庭科では、近くの保育園で保育体験学習を実施しました。また生徒会主催のボランティア活動として、老人ホームの慰問を体験しました。

本年度も本校同窓生、石川昭さんを本校市民講師としてお招きし、生徒を指導いただく予定です。石川さんは毎年市民講師として、税務会計を担当され、相当高度な授業を指導していただいています。平成十五年度、三商伝統の体育祭、三商祭は五十名以上の実行委員が、先生方の指導を受け、生徒たちの活力ある三商祭を作り上げました。体育祭での三商レース(障害物レース)は、最後の障害に珠算計算がありました。昨年度からは電卓計算に変わり、時代の変化を感じます。

平成十五年度の進路では、四百五十社以上からの求人頂き、希望者は全員就職を実現しました。大学進学希望者、専門学校希望者も、全員進路を実現しました。しかしフリーター希望者が若干おり、今後の指導の課題となっています。

平成十五年度は、前年度と比較し大幅に生徒の特別指導が減少し、生徒全員が落ち着いて学校教育を

受けています。卒業生の皆さんが長年かけて作り上げてきた伝統が息づいている証であると思えます。

部活動では、サッカー、硬式野球、硬式テニス、軟式テニス、女子バレー、男子バスケット、女子バドミントン部、柔道部、バトンド、ダンス部、ブラスバンド部等が、文化部では華道、奏曲部、簿記部が活躍しています。サッカー部は商業高校体育大会で優勝、女子バレー部は、東京都公立高等学校大会において、ベスト8になりました。また柔道部はブロック大会において優秀な成績を収めました。硬式テニスも結果を出しています。本年度、硬式テニス部、柔道部に専門の技術指導員を派遣していただき、週一回指導を受けています。柔道部の指導員は元中日ドラゴンズの外野手で、野球を引退後柔道に復帰し、現在柔道八段の森徹氏をお願いして指導を頂いています。同窓会からは、部活動補助として援助を頂き、大変感謝しております。本年度も部活動に力を注ぎ成果を出していきたいと考えています。

本校の学校運営連絡協議会の協議委員に、同窓会から昨年度までは、岩瀬源さんをお願いし、本年度は中野貞三さんをお願いし、学校の運営に様々な提言をしていただく予定です。財団の役員には、木戸会長に常務理事を、岩瀬さんに理事を、好川さん、河原さんには監事を、中野さん、辻井さん、富張さん、鬼沢さん、浅野さんには評議員をお願いし財団の運営にご尽力いただいております。

同窓会が母体で出来ました財団

三商会は、毎年、在校生二十名、校外生五名、大学生四名の奨学金の事業を継続していただき、生徒たちは大変ありがたく、かつ責任を感じ努力しております。卒業時には、財団からの生徒表彰を行っており、生徒には大きな励みになっており、本校教育に様々なご援助を同窓会から頂きありがたく思っています。

本年度は、冷房機器の取替え工事、校舎等の外壁の修理工事が七月から始まり、平成十七年二月には完成予定です。一昨年の耐震工事のときは、校舎内の廊下の壁の改修工事により、内部がきれいになり、今年度の工事により外壁が変わります。機会がありましたら、是非ご来校ください。

都立高校は年々様々な改革を実施し、急激な速度で変化し、都民の期待に応えています。都立商業高校は新しい教育を模索し、創造する時代に突入しています。商業教育は商業という教育内容を通して、人を作ることが目的です。社会に出て、社会の激しい変化に対応し、たくましく生きてゆける強さと、様々な価値観を持った人と円滑な人間関係を保ち、協調性を発揮して活躍できる人間の育成を目指して今後も指導を重ねてゆく覚悟です。同窓生の皆さん、以前と変わらぬ熱い思いを三商に向けていただけたら、有難いと思います。

同窓会の会員の皆様方のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。ホームページを平成十四年秋より開設しています。アドレスは一頁ご参照。

三商と児童文学者 「佐藤義美」

国語科・司書教諭 西巻悦子

佐藤義美は第三商業で教鞭をとっていた。このことについてふれた新刊書のページを見つけたときは驚喜したことを覚えている。(その頃、全国学校図書館協議会編「基本図書目録」2004年版の推薦目録を手伝っていたので、手当たり次第に乱読していたものなからか、ねじめ正一「言葉の力を贈りたい」を見つけ、迷わずリストに打ち込んだ。)この驚きは「犬のおまわりさん」の作詞者が自分の勤務校に在職していたことがあったという事実を知ったことによるものだが、児童文学者と三商のとりあわせを意外に思ったことにもあった。ねじめ正一の「言葉の力を贈りたい」の現代詩の北村太郎の温厚な人柄について述べた一文がある。そのなかに府立第三商業学校が、詩人の母校であり、同じく現代詩の旗手として、たまに高校国語の教科書にも登場する田村隆一もまた、佐藤義美の薫陶を受けたのだとあった。驚いたのはこのことである。三商にアカデミズムが息づいていることは図書館書庫にある昔年の卒業研究論文によりあきらかだったが、リベラルな雰囲気にも溢れていたらしいというところが驚きだったのである。いまでもこそ児童文学も堂々と研究の対象になっているし、児童書の刊行も盛んである。しかし、童謡や自由詩が脚光を浴び始めたのは

三商での 思い出

伝統ある 第三商業高校での思い出

数学科・田中 伸祐

この度の定期異動により、都立八王子北高等学校に勤務することになりました。

第三商業は私にとって、大学を卒業して初めて勤務した高校です。教員にとって、初めに勤務した学校で、これから何十年の教員生活が決まると言われています。なぜなら、一校目で出会った人や学んだことを基礎として、これからの教育に取り組んでいくからです。そう考えると、私にとって、第三商業高校が一校目の学校で良かったと自信を持って言うことができます。生徒指導に熱意を持って取り組む教員、検定取得のための補習や体育祭・三商祭などを大成功させるために遅くまで取り組む姿に、教員は生徒のためにいるのだと実感いたしました。また、生徒は下町育ちのためなのか、人なつこく、職員室がうるさくなるくらい話して来られました。行事には自分の持っている力をすべて出し切り、完全燃焼する生徒の姿に、私も負けていられないと思

い、つい力が入って担任をやったのを覚えています。また、地域や同窓会の方にもたくさん支えられ

た教育活動であったと思います。生徒の中には、登下校中などに悪いことをしそうなことがありますが、そんなとき、地域の方が三商生を見守り、注意して下さい。地域の方に育てられていると感じました。さらに、同窓会の方々は見守っていただいているだけではなく、部活動に対してまで援助していただきました。

こうして振り返ると、私が三商にいた五年間は、生徒の成長を支えようとした私が、三商に関わる皆さん全員に支えられてやってこられたのだと思います。

これから三十年余りの教員生活では、三商で学んだことを基礎として、教育という大きな使命を果たして参りたいと思います。短い間でしたが、どうもありがとうございました。

三商での思い出

国語科 橋本 典子

第三商業には、八年間お世話になった。着任式で聞いた校歌の「日本の富を担う我ら」という一節は強烈で、商業高校の時代性と自負を強く印象づけられた。

商業人、社会人の育成を目指すところに当然生じる遅刻、頭髪、服装指導、全員受験の検定等には、正直、当惑することもあり、特に、生徒の生活指導と日々、直接的に関わる三年間の担任業務では、同学年を組んだ方々の足を引っ張ることになったことを申し訳なく思う。しかしながら、多くの先生方

にご迷惑をおかけしつつも、一方でさまざまな形で支えられ、自分なりの方法で何とか生徒との信頼関係を築くことができたという実感は、これからの私を励まし、勇気づけてくれる宝であると感謝している。また、一昨年度、職場を離れて一年間の大学院派遣研修の機会を得、二十年来抱き続けた卒論の挫折感からようやく解放されたことは、私自身の人生の大きな区切りになったと思う。

思えば三年前に父が亡くなり、昨秋からこの新年にかけては、姉が二度に渡る癌の手術をした。三商在職中は、私を育ててきたものが崩壊し、残り半分の人生が始まる、まさに過渡期に当たったのではないかと思われる。お世話になった皆様に感謝しつつ、公的、私的に得た三商での得難い経験を、今後のステージに生かしていきたいと思っている。

長い間、ありがとうございます。

三商での思い出

家庭科 赤羽 孝子

六年前の春、JR越中島の改札を通り外へ出、まず迷いました。これが最初の思い出です。次に中間考査の「計算事務」の監督。普通科で十数年過ごした者としては、目がテンになったことを思い出します。五十分生徒達は、そろばんと試験問題に一心不乱で取り組んでおり、監督している自分が、ムダな動きをしないよう気を使っ

ていました。商業高校へ異動して来た事を実感した出来事でした。様々な新しい発見があった六年間でした。最後の三年間は、担任として働かせていただき、就職指導・検定への取り組みなど一つ一つ教えていただいた事が、今懐かしく思い出されます。

三商の益々のご発展を願っております。

保健室での思い出

養護教諭 鈴木世津子

三商在職中は、大変お世話になり、有難う御座居ました。

思い出すのは、保健室で出会った多くの生徒達のことです。金八先生のドラマの中に出て来る様な生徒もおりました。

思春期は、思いつきり悩み、迷うものですが、保健室担当として思案に暮れることも度々ありました。

それらの生徒達の力になってあげる事が、私の使命として、又、保健室の存在感があるものと思えます。

現任校は、困難を乗り越え、再び高校生になった人が何人もいました。「エッ、あなたがそんなワルだったなんて!」「大変だったネエ、生きていて良かったネエ」など、保健室で語りながら、苦しみ先の先には希望が有ることを改めて教えられています。

近年である。当時、先生を中心に同人誌が編まれていたというが残っていたれば是非見たいものである。ともあれ、童謡「犬のおまわりさん」「さつちゃん」や小学校の教科書に採録されている「電車と落ち葉」の童謡などをみると詩人佐藤義美の眼差しは限りなく優しい。落ち葉がちるころに電車がそつとすべり込んでゆくように、ものやわらかな落ち着いた雰囲気が佐藤先生の魅力だったようだ。詩を作ること、発表すること、鑑賞し、時には批評しあうと言う校風があったはずだ。憶測でものをいうのは慎まなければならぬが、昔年の三商にはアカデミズムと真のリベラリズムがあったことを想像する。

日本語をめぐって様々な議論があり、出版されている本も多い。本校でも読書離れが進んでおり、文芸部的な活動は衰退の一途をたどっている。一般的な傾向として児童文学、特に絵本などは読書への誘いとして重視されている。私は、童謡詩人佐藤義美先生を中心に生徒には、現代詩人、北村太郎や田村隆一が集い、盛んに詩をつくり、言葉が力を持った時代の三商の精神的風土としての校風や教科指導のことを調べてゆきたい。

三商の過去の栄光としてではなく事実として知ることによって、少なくとも現在から未来への読書指導、創作活動支援のヒントは得られるにちがいない。

今年、大分県竹田市の佐藤義美記念館では生誕100年を記念して企画展を計画中という。この流れもできれば三商の読書活動の追い風にしたいものである。

三商での四年間を終えて

商業科教諭 佐竹 晶博

私が三商にいたのは四年間という短い間でしたが、沢山の所で生徒に支えられ、共に苦しみ、共に楽しんだ四年間でした。初めての授業、初めての担任、自分の中でいつまでも大切にしたい事が三商には沢山ありました。

三商は、本当に素晴らしい学校です。生徒や先生はもちろん、パソコンなどの施設、さらには伝統という大きな資本も沢山あります。今回の担任途中での異動は本当に納得のいかないものでした。いつも、卒業式で卒業を祝うためにと努力してきました。だから、今でも本当に残念でたまりません。しかし、色々な所で現三年生が一生懸命やっていると、この事を聞いて一緒に頑張ってきたことを誇らしく思っています。

私は三商を皆さんと同じように自分の原点がある母校だと思っています。だから、いつか戻ってき、自分のために三商のために頑張りたいです。四年間お世話になりました。三商の皆さん、それまでは三商をよろしく願います。

三年間を振り返って

事務長 阿久津浩一

平成十三年四月から本年の三月までの三年間、三商にお世話になりました。三商には、妻が平成二年から七年間、保健体育の教員と

して居たこともあり、関わりは着任以前からありました。平成十一年に閉鎖になった六日町の山寮へは、毎年のように家族スキーで利用していました。昨年八月に、山寮跡地へゴミの不法投棄があり、六日町役場から呼び出しを受け行ったときには、その変わり果てた風景に、寂しさと時の流れを感じました。

そんな関わりがありましたので、東京三商会理事の職務も、何もななく着任した方よりは、スムーズに行えたように思えます。しかし、資産管理という面ではまったくの素人で、ご尽力頂きました都築元理事長及び河原監事には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第三商業高校及び同窓会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

三商での思い出

学校事務 一柳 克文

都立大島南高等学校に異動しました事務の一柳です。都立第三商業には、わずか二年しか在籍していませんでしたが、ありがとうございます。

第三商業の思い出と言えば、まず最初に三商ロードの長さでしょう。三月の事務引継の際に、門前仲町の駅から歩き、やっと学校に着いたと思ったら、事務室はまだはるか遠くに見えていました。しかし、桜が咲く時期にはとてもきれいで印象深いものでした。

次に、事務室から見える東京タワーが好きでした。夜になるとラ

イトアップされて、とてもきれいでした。

今年度は、校舎棟、プール棟、体育館棟すべての外壁改修工事が予定されていて、平成十七年には、とてもきれいな第三商業になるのを楽しみにしています。

これからも三商の思い出を大切にしていこうと思います。ありがとうございました。

三商での思い出

商業科教諭 浅川由津貴

歴史ある第三商業高等学校に赴任し、六年の歳月を生徒達と過ごすことができました。「青少年は部活で汗をかけ、腕を磨け」と常日頃より生徒達に話してきま

したが、長く続く平成不況からの資格取得ブーム・高校卒業生の就職内定率の低下などによって、放課後検定補習に多くの生徒が時間を割くようになり、部活動が寂しくなってきました。部活動は生涯学習の基礎になるものであり、生きる喜びをスポーツ・芸術活動などを通して、またその活動の中で人間関係を学ぶ最適な場です。しかし平成十五年度は、三商のグラウンド・体育館・校舎内が部活で活気が出てきたと感じました。この流れを大切にして、健全な生徒達の心身の成長を願っております。第三商業高校は、一人一人の生徒が、自らの人生の目標を見つけることができ、人として健全に成長できる学舎でありますように願います。

最近の主な出来事

ホームページより

◎入学式

四月七日(水)
二百十四名の生徒が入学しました。入学式のと、対面式・新入生歓迎会・クラブ紹介が行われました。

◎体育祭

六月四日(金) 快晴の下、盛大

に開催されました。T軍(青軍)優勝。

◎野球東京大会

七月十一日(日) 十二時三十分
大田スタジアム

(最寄駅 東京モノレール
流通センター駅)

◎三商祭(文化祭)

今年度は、十月二十三日(土)、二十四日(日)です。

◎その他の行事の事や、教育目標など学校の基本方針が掲載されています。是非ご覧下さい。

転出・退職者等						
課程	転退別	教科等	氏名	転出校	在籍期間	
全日制	転出	国語	橋本典子	城東全	8	
全日制	転出	数学	碓井慶彦	葛西南定	4	
全日制	転出	数学	田中伸祐	八王子北定	5	
全日制	転出	保体	山元和三	大森全	10	
全日制	転出	英語	望月洋子	千早全	6	
全日制	転出	家庭	赤羽孝子	東全	6	
全日制	退職	商業	牧野正義	引続き再任用	10	
全日制	転出	商業	浅川由津貴	向島商定	6	
全日制	転出	商業	佐竹晶博	赤羽商全	4	
全日制	転出	養護	鈴木世津子	飛鳥定	3	
全日制	転出	保体	長江誠	墨田工業全	10	
全日制	転出	事務	阿久津浩一	戸山全	3	
全日制	転出	事務	一柳克文	大島南全	2	

十五年度の 主な行事

校歌祭

二十六期 岩瀬 和子

校歌祭は今年十二回目を迎えます。平成五年旧制府立中学十三校を主体とし、日比谷公会堂を会場に発足したそうです。

平成八年、第四回開催時には、二十一校になったそうです。平成九年、第五回開催にあたり、府立商業系の参加要請があり、三商と一商が受け入れ二十三校の出場になりました。校歌祭出場校の連絡を同期の古田勝一さんより聞き、母校にて初顔合わせがありました。校歌祭参加準備委員長、そして指揮者に十二期の大嶽清さんになって頂き、十九期木戸隆吉さんが歌唱指導をして下さっています。

初参加の時は六十名で、校歌、応援歌を声高らかに歌いあげました。毎回、開催前に準備会が行なわれ、前回の反省と今回の注意点など話し合い、練習をしております。良かったというお褒めの言葉を耳にします。参加者が少なくなっています。昨年は日比谷公会堂が改装工事の為、日比谷高校の星陵会館で開催され、四十五名でした。

私達二十六期は、還暦を機に毎年同期会を行っております。その

折、古田さんが案内を作ってくれて、参加を呼びかけてくれます。去年、二人が初参加してくれました。参加者の年齢が高いため、ぜひ後輩達が大勢参加して下さることを願っています。

又、出来れば、ブラスバンドで歌いたいものです。そういう参加校もあり、うらやましいかぎりです。ブラスバンド部のOBの皆様、ぜひご一考下されば幸いです。

今年十月二日(土曜日)日比谷公会堂にて開催されます。ぜひ大勢の方が参加して下さるようお願いいたします。



校歌祭

三商OB団体交流会

実行委員長 二十五期

鬼澤好男

平成十五年十一月十五日同窓会の新しい行事の一つとして、各分

野で組織され活動をされて居られる各会・各団体の交流・親睦を計るため、三商OB団体交流会を神保町教育会館9Fレストラン「喜山」に於いて、御来賓として青木校長先生の御臨席を戴き、三商會計人会・三水会・木樨会・三史会・剣友会・清田先生募参会・校歌祭出席者の会・同窓会役員会等、十一団体所属の会員五十三名のご参加を戴き開催を致しました。

会は大変盛り上がり、各会の紹介・現況報告等を戴き和やかに進行し好評を得ました。

同窓会では組織の強化・自主運営の確立等、数々の課題に取り組み次の世代につながる同窓会の姿を求めて活動をして居ります。総会・三商OB団体交流会等を通じ同窓生皆さまの母校三商に寄せる熱い思いを力として、その目的が達成される事と思います。

本会は総会との隔年毎の開催を予定しております。次回平成十七年には新しい団体の参加も期待し今回を上回る大きな輪になればと願っております。



OB団体交流会

同窓会役員新年会

二十一期 富張 勝三

平成十六年二月二十一日東天紅両国店にて、二月なのに気温十六・二度と暑い日に青木孝雄校長、篠田繁教頭の両先生には、卒業式の準備の忙しいときに出席を頂き、出席者五十一名にて同窓会役員の新年会を開催致しました。青木先生には学校の現在の状況とホームページの開設など説明をいただきました。

出席者全員の自己紹介と現況の報告と同窓会のありかた質問などいろいろとありました。今回は評議員の他、各期幹事の出席をお願いいたしました。幹事十一名の出席がありました。

これからも開かれた同窓会になりますよう女性の幹事さんも多数出席をお願い致します。

同窓会報は毎年七月頃発行されますので各期の状況とクラス会などの報告の投稿をお願い致します。

本年は十月二日土曜日の東京校歌祭と、十一月三日文化の日の同窓会総会がすでに決まっておりますので、クラス会、同期会などの時に連絡をして多数の方が出席されてお目にかかれることを願っております。



「何してオル」 「……」
「酒ばかり吞まずに勉強せよ」
「……」 「来年日本大学を受験せよ」
「……」

往時の
思い出

清田先生の思い出
(十年目の募参会を終えて)

十一期 岩田 福治

◆戦後間もない昭和二十三年の新宿歌舞伎町は、今では想像もつかない清楚な町並みで、コマ劇場もまだ出来ていませんでした。

その歌舞伎町で秋の日の夕方、突然すれ違ひざまに「岩田ツ」と声を掛けられました。一緒にいた同期の畠中君と二人、びっくりしてその人の顔を見るとなんと清田先生でした。



新年会

有無を言わせぬたった五分位の立ち話で二人とも翌年四月経済学部に入學しました。といつても就職と兵役で出来た五年のブランクを埋めるべく必死で勉強しました。

でも、そのお陰で大学三年のとき、制度が出来て間もない税理士試験に合格し、その後の私の人生が大きく拓けてきました。本当に有難かった清田先生との出会いでした。

それにしても、あの歌舞伎町での先生の果敢な即決は何だったのでしょうか。人脈の広さは言うに及ばないとしても、一度その理由を先生からお聞きすればよかったのですが。

◆先生が卒業生の名前をみんな覚えておられることは有名ですが、お話をしていると次から次へと先輩方のお名前が出てきます。

税理士の話のときは「大蔵省に好川栄一がオルゾ」(五期、現三商会計人会会長)。日本会計研究学会の話のときは「早稲田の目下部与市は若くして亡くなって惜しいことをした」(十三期、監査論の権威)「今は片山サトルがオルゾ」(二十八期、現早稲田大学商学部教授)。会計学会関連で「専修大のM教授は宮川隆一のご子息の仲人をした」と卒業生の家族関係までお詳しいのには驚くばかりです。(十一期の宮川隆一君とそ

のご子息は共に税理士で活躍中)尚、先生は三商校長退職後、専修大学の教授になられたことはご存じの通りです。

名前の破格の記憶力のことでもうひとつ、先生と車で虎ノ門界隈

を走っているとき「ここは松下新太郎(三期)のオカノの大福屋でアルゾ」とおっしゃいました。予約をしなれば、おいしい大福が買えない有名なお店の前でした。

◆先生は筆マメで、しかも返事がとても早い人でした。酒の席が終わって翌日には「美酒佳肴……」と書かれた葉書が届くとは、その日のうちに書かれて投函されたのではないかと思う程です。また私が今の佃島へ引越した移転挨拶状にはすぐに「母校のそばに來られたナ……」と返事を下さいました。故郷へ帰ったような温かさを感しました。

もうひとつ先生のほめ言葉。「経理規程の作り方」という本の新版を中央経済社からお届けしたときのこと早速「……あつぱれである」とのお手紙を戴きました。この「あつぱれ」とは折りにつけ私の励みになる有難い言葉だと思っております。

そして私の会社リタイヤの挨拶状にもすぐに反応があつてその結びに「……余生を充実させよ」とありました。その励ましのお言葉をかみしめながら今は日夜、余生の充実を知恵を絞っている処です。

◆今年(平成十五年)十月七日先生の墓参会が十年の満願を迎えました。十期の福田先輩のお世話で参加出来、亡き清田先生の墓前に手を合わせる事が出来たことを心から感謝申し上げ、あらためて頭に浮かぶ先生の思い出を綴らせていただきました。

(一部敬称を略させて戴きました)

短くも長い日

十五期 岡野加穂留
(明治大学名誉教授・元学長)

食べる物が無く毎日の重労働で、疲れ切った無表情の中学四年生(現高一)の僕は、生き残ったクラスの仲間と、カーキ色の戦闘帽を右手に下げ、黙って俯き立っていた。一九四五年八月十五日の東京深川越中島の軍需工場に指定された日立製作所の広場。昭和天皇の「終戦の詔勅」の放送は、難解な勅語調でしかも雑音が酷く理解できなかった。

太平洋戦争開始の翌年の一九四二年に、凛として入学した東京都立第三商業学校の同級生の三分の一は、住宅地へのアメリカ空軍によるナバーム弾無差別攻撃で焼き殺され、工場の防空壕に入り損ねた級友は、米空母艦載機P51の低空飛行による機銃掃射で、目の前で死んでいった。

僕にとつて一番に長く感じた時間は、この「八月十五日」に集約される短くも長い学徒動員の三年間だ。たとえ長くても「逃げ水」(ミラージュ)のように感じる時間もある。

天皇大権の明治憲法下の十六年間と、国民主権の平和憲法の五十七年間で、常に脳裏を離れないのは、人格形成の基礎になる教育の原点たる十代半ばで、死線を前にしてさ迷った体験だ。日中戦争に始まる「十五年戦争」の深刻化につれて、一九四四年に内閣が制定した「学徒動員令」で、中学生以

上のほぼ全員が労働不足を補うため軍需工場に強制配置された。

都立三商では、入学直後からの厳しい校内選抜試験で毎回順位が廊下に張り出された。上位者はエリート軍人になるために陸軍士官学校か海軍兵学校への進学を先生から勧められた。成績の悪い生徒は、戦争末期には「消耗品だ!可哀想に!」と陰口を叩かれた「七つボタン」の土浦の海軍飛行予科練習生(予科練)か、爆薬を詰めたベニヤ板製の小型ボートで敵艦に特攻攻撃をかける陸軍砲(あかつき)舟艇部隊生になることを勧められた。

父は天皇直属の近衛歩兵第一連隊にいたので、僕は十四歳になって陸軍士官学校に進学の為に、東京の陸軍中央幼年学校を受験した。だが近視で不合格になった。この時には、五歳違いの妹の礼子が特効薬が無いために死んだ時以来の大泣きをした。今村直人校長には、経理将校になる陸軍か海軍経理学校ならば近眼でも入学可能と激励された。

敵国の英語は中国語に切り替り、工場労働の合間に軍事訓練と小学校から身に着いた剣道の厳しい稽古には耐えぬいた。水戸藩の東武館道場の柳沼長治師範の「人間格から醸し出す北辰一刀流免許皆伝の剣に惹かれたのかもしれない。十代半ばでの凄烈な体験が、その後の「きかん坊」(飢・寒・乏)精神の構築に、大きな影響を与えた様に思われる。

敗戦後、五十七年経った。明治元年から敗戦までは七十七年間だ

が、旧憲法の運命は五十七年目の敗戦で終わった。旧憲法の体験者として言えば、戦後の新憲法の方が遙かに善い。僕にとつて、新憲法の五十七年は「三年」より遙かに長い、近頃では「逃げ水」のように思えてきた。政治的先祖帰りだけは御免だ!

二〇〇三年(平成十五年)九月号「正論」の「人生で一番長かった日」より
※前回総会(平成十四年十一月三日)にて講師をお願いした、岡野先生の記事が掲載されてしまったので、ご了解を得て転載しました。

同期会

八期最終会
平田助治

昭和十五年卒業以来会の中心的存在であった神谷武志君(同窓会元会長)が、平成十三年十一月逝去された。数年の間、開かれなかったのが、同窓会との連絡係、同窓会幹事(榎本三郎君)八期会会計担当(篠塚健治君)、会有志の募参会(故吉澤校長・多摩墓地)に参加していた、平田助治が当番幹事となって、平成十四年十一月十三日、榎本君のご盡力で、千代田区、一ツ橋の如水会館にて、久しぶりに八期会を開催した。

出席者十五名。皆元気で旧交を温めた。そのとき八期会の今後の運営について相談したところ、「もう我々は傘寿が眼の前に迫っているのを、会を続けるのは無理だろう」との意見が多数を占めて、来年最終会をやるうという事で散会した。

平成十五年十一月十一日、前回と同じ如水会館で最終会を開いた。当日は小雨模様で、相にくの天候であったが、遠くは北海道から、又卒業以来、始めて参加したというものもあって、総数十九名が参集し、別れを惜しんで散会した。尚最終名簿の作製印刷は、佐々木萬晋君にお願いした。

八期は著名な詩人・翻訳者がいた。

昭和五十年頃だと記憶しているが、当時我々の年代に広く読まれていた「文藝春秋」の巻頭グラビアの最初の頁に「僕等同級生」というタイトルで、何と、田村隆一・北村太郎・加島祥造三君の懐かしい容姿が写っているではないか。それぞれ短い経歴と業績が記載されていたが、卒業以来一度も会っていないが、貫禄がついて頼しく、私も何か肩身が広い様な気分になった。

田村隆一君が、晩年鎌倉に住んでいた頃、或る日、大田治子（太宰治の娘）を訪ねて行ったところ、美しい女性が挨拶に出てきた。彼は「これは五妻です」と紹介した。彼女は後妻と言ったのだと思っただけだが、実は五度目の妻というシ

ヤレだったのだ。

北村太郎君

（松村文雄）君は、双子のお兄さんだった。弟は武雄と云う名前だった。両君とも成績が良くたびたび級長になった。兄は長髪にしていた。それは前頭部の真中に硬貨程の禿があったのを隠すためだったのだが、それで兄と弟の見分けをつけたものだった。

加島祥造君

彼とは同じ区、神田区（註）現在千代田区）に住んでいた。（当時三商では居住地区により、一区々十区に分けていた。）彼は短距離競走が早かった。私も早い方で、区の連合運動会でトップだったことがあったが三商に入ってからには彼にはかなわなかったことを憶えている。

後年、横浜国大の英文学の教授

になっていた時があったことは、これも偉いものだと感心した。（註・前記両君は死去されたが、彼は信州・伊那谷で、悠々自適の生活を過ごしている。）

十期やそじ（八十路）会

荻野 文雄

台風2号が強風、大雨をもって関東地方を襲うと予想された五月二十一日（金）、幹事の心配をよそに、午前10時頃には東京は雲一つない五月晴れ。

五十年続いた「十期会」は昨年五月で解散したが、福田猛君の発意で、当面、常連の集いを年一回、平成21年まで「十期やそじ会」として継いでいくことになった。会場は同期古田泰治郎君経営の神田淡路町の割烹「萬代」。正午、古川恵一君の司会で開会、福田君の挨拶、山田澤三君（神田明神氏子総代）の乾盃音頭で開宴。

人間は老いると、仕事から離れ、子は独立し、体は弱くなる一方で喪失感にさいなまれる。また、時代は経済的には豊かになったが、心が貧しくなったと思う。

こんなとき、活力を甦らせるのが旧き友との交流である。

殊更に語り合わなくてもよい。戦中戦後を共に生きてきた白髪禿頭の老友と同席するだけで、自分の人生が確かめられて心がはずむ。さすがに皆酒量は落ちたが楽しいひとときであった。二時、荻野が手締めして解散。

出席者 二十四名

飯島武敏、石川喜一郎、石丸豊多郎、岩崎功、大森文吉、加瀬善太郎、神谷恭正、國定健一郎、小池善四郎、小西康義、小谷松淳郎、佐々木博夫、田中利雄、中一、

十七期会

飯田 幸男

平野欣二、福田猛、古川恵一、古田泰治郎、帆足誠、松下義雄、持田政雄、山崎順三、山田澤三、荻野文雄

平成十五年十二月六日（土）午後三時より三菱養和会巣鴨スポーツセンター内パルテールにおいて「年齢を忘れる会」を開催。この通知を会員四十一名に出状。十四名参加。二十七名欠席、体調不良と夫人の介護が大半。その中に吉田征夫君が八月に糖尿病を悪化させ亡くなったと夫人より返事があり急遽「吉田君を偲ぶ会」となった。

寒さのせいかわ、さすがに同スポーツセンターで水泳後、サウナ付入浴するコースも企画したが参加者なし。世話役としては風邪でもひかれてはと心配していたのでホット一安心。時間に余裕のある仲間には「熟年の原宿」にある「菓鴨とげぬき地蔵」を参拝後参加する。会は吉田君の遺影に献杯、同君の亡くなった経緯を申問した幹事から報告。三商時代、在りし日の吉田君の思い出話に花が咲いた。同君の遺影に「木洩れ陽のあたたかき日に級友の笑顔」の句が供えられた。

温かい鍋料理で飲食しながら、お互いの近況を語り、健康で旧友と再会できた喜びに感謝し、時の経つのを忘れるほどであった。

最後に校歌を斉唱し、次回「お花見」での再会を約し散会した。



卒業五十年を過ぎて

十九期 安藤日出男

私たち十九期は、太平洋戦争の終戦を迎えて半年余の昭和二十一年三月に東京都立第三商業学校に入學しましたが、翌昭和二十二年三月三十一日学校教育法・教育基本法が公布され四月一日に六三制が実施された結果、第二学年から東京都立第三商業学校併設中学校の生徒となり、昭和二十四年三月に第三学年を卒業と同時に東京都立第三商業高等学校に自動的に無試験で進學しました。

それで私たち十九期生は、併設中学校卒業で就職したり定時制へ進んだ人たちを除いて昭和二十七年三月に卒業するまで六年間在学したわけですが、これは同期生の殆どが、学童疎開からの帰京組のと



8期

二十五期同期会

玉田 俊夫

未だ残暑が続く平成十五年九月二十七日、第八回の二十五期同期会を東京駅大丸十二階「ルビーホール」にて開催した。岩永達郎先生、中川甲子三郎先生、木戸隆吉同窓会長様のご出席のもと、総勢一〇三名(うち女性二十三名)が集い、盛大な会になった。まず、岩永先生のご挨拶をいただき、その中で先生のご発意により、すでに鬼籍になられた先生方及び同期の方々のご冥福を祈って全員で一分間の黙祷を捧げた。次いで中川先生ご挨拶、木戸同窓会長様ご発声の乾杯で会は始まった。

二年振りの会であり、遠く札幌や仙台など隔地からも駆けつけた仲間もいて、近況を報告し合い、未来を語り、皆で旧交を温め、話の尽きない有意義な会となった。途中で十月に開催される高校校歌祭に備え、同窓会長様の応援歌の指導もあり、全員が大声で唱和した。また一組・鬼澤好男氏の挨拶とともに、同氏の同窓会副会長就任を皆で祝した。

思い起こせば、未だ戦火による貧しさが残り、やっと戦後の混乱を脱しつつあった昭和三十三年三月に三商を卒業した我々は、がむしゃらに働き続けて日本経済の発展を支え、今日を迎えたわけである。既に仕事を離れた者も過半を超えて、悠々自適の人たちも多くなった。卒業から四十五年、女性

は現在でも皆若々しいが、当時の紅顔の少年も白髪が目立つ歳になったのである。

先生方も含めて各組ごとの写真撮影を行い、次回幹事九組・諸伏守氏挨拶、そして全員で校歌斉唱をして、あつと言う間に二時間が過ぎた。

亡くなられた級友を偲ぶ二次会を予定している組もあって、名残は尽きないが再開を誓った中締め後は、一組から九組まで、それぞれ組ごとに二次会に移っていった。



25期幹事 2組

第三十一期(昭和三十九年卒業)「四十周年記念同窓会」の報告

太田 弘

平成十六年二月一日、第三十一期の「昭和三十九年度都立三商卒業四十周年同期会」が、錦糸町の

「ロッテ会館」で盛大に開催されました。当日は、還暦間近の懐かしい顔の面々と卒業時の担任の先生方五名も出席頂いて、総勢で二百名を超える盛大な同窓会となりました。三組の高木先生、四組の竹田先生、五組の伴野先生、六組の松原先生、七組の西山先生のお年はとりましたがとても元気な様子と、日頃の健康法等、意気盛んな近況のお話に、沢山の拍手が送られました。今回のように盛大な同窓会が開けたのは、スポーツ部の皆さんが中心となり、幅広く同期の皆さんへ呼びかけをした結果であります。日頃からのお付き合の深さを感じました。内容は実行委員会、先生方の挨拶のあと乾杯から懇談に入り、飲み、食べながら、大変賑やかな会話が大きく広がって行きました。各テーブル毎にクラス分けされたこともあり、より話に花が咲いたようです。

四十年ぶりに会った人、お互いの思いが合った人、逆に記憶や、出来事が全く違っていた人、全く自分の覚えていない話を聞いて、おもしろい話も聞きました。懐かしい人ではないでしょうか。懐かしい人の消息や、もう会えなくなった友人の事に話が及ぶと、おもわず涙ぐむ人も見かけました。想い出の人と出会い、遠い胸ときめく心に、ほろ苦い感傷を感じた人もあったことと思います。続いて行なわれたくじ引きや、各クラス毎の記念写真、校歌、応援歌の大合唱もあり、大変にぎやかで楽しい時間が持てました。一次会終了のあとは、同ビルの別階に会場を

移しての「カラオケ大会」となり、ほとんどの方が二次会に流れて行きました。クラスを超えたカラオケで、それぞれが自慢の喉を大いに競い合った次第です。気のあったメンバーはその後もめいめいに次の会に流れて行ったようです。四十年ぶりの同窓会、これからも元気でこのような会がいつまでも続くことができればいいと全員が思っておりました。本当に楽しい一日でした。

六十八期生主催 恩師送別会

中村 公彦

昨年の三月二十九日、錦糸町の「白木屋」に於いて、「六十八期卒業生主催恩師送別会」を行った。

元三年一組担任岡松典子先生・元四組担任土谷武先生・元五組担任佐々木勇一先生が、我が母校第三商業高校を離任されることとなり、六十八期生主催送別会を行うという話となった。そこで、幹事として私に白羽の矢が立った。

三商を卒業してすぐに茨城へ戻った私は、遠方にいる私が「幹事としてみんなに声をかけて、果たして人数が集まるのであろうか?」と心配していた。しかし、予想以上に皆の恩師への思いは熱く、当日は五十名を越す人数が集まり、用意していた席が足りなくなるほどであった。

た。久々に同期生が集まり、学生時代の思い出を語り合った。「在学中は先生方に文句ばかり言っていたが、今となっては放課後遅くまで、また夏休み中にも、我々が一つでも多くの資格試験に合格できるよう、簿記大会等で上位入賞できるようにと、日々指導して頂いたありがたさが、卒業した今になってやっとわかってきた。」などと、昔話に花が咲き、一次会が終わった後も各グループ等で二次会を行って、大いに盛り上がった。皆とても有意義な時間を過ごすことができたと思う。

今思えば、今回の送別会を知らなかった同期生もいたことと思う。卒業時、連絡体制がきちんととれる状態を作っておけば良かったと、後悔するばかりである。今後は、定期的に同期会を開催し、同期の親睦を深めると共に、同窓会・母校三商の発展のために何か出来ることを行いたいと思う。

三商のホームページ 同窓会会長挨拶

「隔たりて 益々高し 富士の山」

三商は卒業してから、その偉容が富士の山の如く、ひしひしと感ぜられてくるような、偉大な学校です。

いかなる学生でも、入学すれば三年間の三商教育によって、商業の専門に精通した学生へと変身しております。私は昭和二十七年卒の自家営に

すすんだ十九期生です。当時は、「就職難時代」で経済が沈滞しておりました。それが一〇〇%就職が実現したのですから、吃驚しました。又進学コースでも、一ツ橋大四名、早慶六大学へも多数入学生を果し、立派な成果を上げることが出来ました。これも偏に、諸先生方のお陰で、当時の補習や熱のこもったご指導は、目を見張るものがあったことを覚えています。

卒業生は一期から七十期迄で、二万四千名にあと三十二名と迫っています。それぞれ各期同期会が催された時の一人一人の交流でも、変身振りが如実に物語っています。在学中は珠算一級、簿記一級の生徒が多く見受けられました。又一人一人の考え方も、しっかりしたものを持っていたように記憶しています。三商生はその目標である、「一流をめざせ」「最善を尽くせ」が浸透し、地元・地域の人たちにも認められ、誇りをもって活躍しております。

おわりに、同窓会の皆様、諸先生始め在校生、職員の方々、PTAの方々の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、共に三商発展に寄与いたし度く、切にご協力をお願い申し上げます。ごあいさついたします。

平成十五年七月二日
第十九期卒業生

同窓会会長 木戸 隆吉

古暮正雄先生追悼記

第十二期 吉岡鶴義

昨平成十五年八月三十日、突然古暮夫人（三商二十四期）よりTEあり、今朝主人が静かに息を引き取ったと言われて絶句した。この処、体調悪く外出も儘ならぬとは聞いていたが、まさかこんなに早く別れが来るとは思わなかった。私は最近ギターの弾き語りを習い初め、特に古賀メロディが好きだと言うと彼も同感して呉れたので、そのうち聞かせに行くと約束したばかりだったのに、遂に果せず、返す返すも痛恨の極みであった。

想えば彼とは昭和十四年三商入學時から始り卒業後、再び母校で教員同志として、又同期の校として六十年余り人生の大半を付合つたことになる、信友であった。古暮氏は昭和十四年四月府立第三商業学校へ入学、昭和十八年十二月卒業（戦時中の為繰り上げ）同十九年四月から剣道五段の実力を評価され助教師として母校三商に残ったが、終戦間際の三商は、充分な授業も出来ず、校名も造船工業と変えさせられたり、日々、勤労働員の生活であったと聞く。昭和二十年三月十日、アメリカB29による大空襲で、東京は一面の焼野原と化した。三商の校舎は倅にも周辺に民家なく焼失を免れたが古暮氏の住家は焼けてしまったので止むなく学校に一時避難し生活せざるを得なかった。又他の教員も同様で学校は暫く、難民宿泊場所であったと云う。

間もなく昭和二十年八月終戦、日本は敗戦国、米国マッカーサーの支配下となり、学校教育も再開されたが、日本の武道（剣道柔道等）は除外されてしまった。彼は止むなく、他に得意としていた書道に転向、教諭としての資格を取得する一方、国学院二部に通信社会科（日本史）の免許を獲得したと聞く。

やがて私も日体卒業後、暫く父の郷里富山県で体育教師として勤務していたが、三商の恩師今村校長より、母校へ帰るよう説得され昭和二十六年九月、三商へ戻って以来古暮氏と一緒に教員生活を送ることとなったのである。母校三商に於て、古暮氏の活躍は目覚ましく、

全国歴史教育研究会常任理事として常に学界へ足を運び研究発表を怠らなかつた。

芸術科（書道）

読売書道展理事、成田山新勝寺、大塔建立に献書、日展入選六回。（雅号曲洞）

クラブ指導（課外活動）

史学部・書道部・後に解禁となつた剣道部と三部掛け持ちで大忙し、生徒間の人気抜群、数多くの生徒はその恩恵を受け、優秀な人材を育成した。

晩年、昭和五十九年前立腺より病魔に襲われ、剣道五段の猛者も病氣には勝てず、次々と発生した内臓疾患に数回の手術、入院を繰り返したが、持前の大声と教育熱による気迫は他を圧倒していた。若い時から酒豪で、日本酒才

ンリー、飲む程に弁舌さわやかになり、よく天下国家を論じ最後は良く歌つた、「良い子供は良いお母さまから」「ゴンドラの唄」東海林太郎の歌等は十八番であった。その酒が原因で体調を悪くしたと本人も自覚していたが、遂に死の直前まで愛飲して止まなかつたと夫人から聞いた。

正に豪傑そのもの、文武両道の達人、宮本武蔵の如き人物であった。

昭和四十年中頃から始つた学園紛争以後、永年同一校勤務は認められず、他校への転勤を勧められたが頑として従はず母校三商一筋、実に四十二年間勤続したことは、本人は元より同窓会にとつても三商を最も良く知る生字引であり、その貢献は万人が認める処である。

処で三商の同窓会は並ある都立校の中でも群を抜いて強力優秀団体である。初代会長、岡田一郎氏（第一期）時代、事務局長を務めた杉原勇太郎先生（第六期）の後を古暮氏が引継ぎ、病氣発生までの十年余り第二代事務局長を務め、会の結束と発展に尽くした功績は多大なものがある。母校三商への愛着は人一倍強く、昭和五十五年校舍改築の際は実行委員長として活動、昭和五十八年完成時には表門、裏門の表札校名、正門より通路にある、丸い黒御影石に彫られた校歌、又、この同窓会報のタイトル文字も総て、古暮氏の揮毫、後輩達に残された貴重な宝物である。

り尽くせないが、生涯を三商に捧げた精神は永遠不滅であり、残された者はその意志を引継いで行かねばならないと心から想う。辞世の句
むざんやな カブトの下の
キリギリス
二十年間の闘病生活で、流石剣道の達人も体力衰え瘦身となつたが気力は最後まで、しっかりとしていた。まだまだやり残した仕事は多くあつたであろう。自宅の部屋に飾られてある、剣道部卒業生から寄贈された剣道の面（人形ケースに入ったミニチュア）から吟じられたと想像され、彼らしくユ一モアもあり素晴らしい句である。

安らかに眠って下さい。 合 掌

古暮正雄さんを偲ぶ

第十二期 菅原金造

平成十五年八月三十日早朝、自宅で家人も気付かぬうちに静かに古暮さんが永眠した。

享年七十六才であつた。夫人から知らせをいただき予想もしていなかつたので、にわかには信じられなかつた。

彼からはよく電話があつたが、ここ暫らく途絶えていたので、問い合わせたところ風邪気味で臥せているとのことだったので、それなら直ぐによくなるだろうぐらゐに軽く考えていたので尚更のことである。亡くなる数日前、口直

しにと梨を送ったのだが、彼からやっとしたためたと思われる札状が届いたが、これが絶筆となった。私にとつてはもつとも信頼のおける畏友を失った。参上して故人と対面したが、長いつきあいのあれこれが思い出されて万感胸に迫るものがあつた。

古暮さんとは戦前の深川で小学校もいっしょで家も近くよく往き来をしていた。彼はたいへんな勉強家であり、努力家であつて、特に剣道、書道に励み、やがて剣道五段、読売書道展理事、日展にも六回の入選を果している。

その後昭和二十年三月の東京大空襲により散り散りになつたが、終戦後お互いに無事であることが確認された。

やがて私は昭和二十七年に江東区大島で世帯を持ったが、偶然、彼も大島でご両親と住んでいらつしやつた。縁があるというのか、又々ひんぱんに往き来をするようになった。下町の気風が私達には合うのか、よく二人で銭湯に出かけ、帰りに一本下げてきて飲んだ。酔えば東海林太郎を唄つた。また浅草が近かつたのでよく出かけた。

それから暫くして彼は江戸川区松江に転居し、昭和三十五年三月に桂子夫人と世帯を持った。私の家とは家族ぐるみでおつきあいをするようになった。

その彼も昭和五十九年に前立腺を患い入院生活を繰り返してからは、めっきり体力の衰えが目立つようになったが、アルコールだけは欠かすことがなかつた。

世話好きで、義理人情に厚く飲めば「勝負は一本」が口ぐせであつた。

私も彼と一献かたむけている時が最高に楽しく心の安まる時であつた。平均寿命にはまだ間があるのに惜しみても余りあり残念でならない。

鬼籍に入られた古暮正雄さんのご冥福を心からお祈りする。

古暮正雄先生の思い出 第十九期卒 細田安治

むざんやな カブトの下の
キリギリス

古暮正雄先生、通称 ふるぐれさん が他界された。真に残念至極つしんで悔やみ申し上げます。先生は、確か十二期卒七期先輩のはずだ。この歳になれば七ぐらいの違いはほとんどないが、三商時代の七年は、大人と子供、幼児と青年ほどの違いがあつた。私は旧制中学最後の入学生だ。終戦の翌年の昭和二十一年には、皆が弁当を食べている時間に、弁当を持ってこれられない同級生が、校庭でさびしげに、ひなたぼっこをしていたのを思い出す。教室のガラス窓は、破れ放題寒風が直接吹き込み勉強どころではない状況であつた。

隣の商船学校に、米軍が駐留し、やりたい放題のことをしていた。授業中に爆音をとどろかせた戦車が列をつくって校庭に乱入し、戦

車のキヤタピラで、アスファルトをひっくり返し、工事現場のように荒らしまわつた。逃亡兵が校舎に逃げ込み、MPが追いかけてきたこともあつた。まだ書けばいくらでもこんなことはあるが、とにかく勉強どころではない荒んだ時代であつた。先生は、校舎の一番東側の階段の下にある部屋を住まいにして、文字通り学校と起居を共に、毅然として教壇に立たれ、我々を教え導いてくれた。

担当は、歴史、書道、体育であつたと記憶している。教員不足の時代一人でも担当した時代であつた。

卒業してからも、同期会開催についてご招待すると必ず出席され、お酒も大変お好きなたであり、当時の苦労話を、苦労とせずユーモアたっぷり明るく話され、会を盛り上げてくださったことを昨日のように思い出す。年賀状、暑中見舞いを欠かさず頂いた。それも、らしく、歴史の先生らしく漢詩や俳句を、書道の先生らしく墨痕鮮やかに書かれたものを頂いていたが、亡くなられる前に頂いた暑中見舞いが、冒頭の「むざんやな カブトの下の キリギリス」である。筆跡も先生らしからぬ、大変乱れたものであつた。これはよほどお体が悪いのでは、と案じていたところまもなく訃報に接した。私が頂いた暑中見舞いが、先生の絶筆となつたわけである。心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

古暮正雄先生を偲んで 第二十四期 長井修己

平成十五年八月七十六歳でご逝去されました。多くの人達から親しまれ、学校内外からの大勢の弔問者に惜しまれながら昇天されました。痛恨の極みでありました。

先生の生涯は三商の歴史とともに、書家、歴史家、武道家として、豪快で高邁な人間性豊かなお人柄は、今も心に残っております。

時に失敗ごとがあると「それはパンクですな」とおっしゃって、我々に失敗を恐れるなという教訓であつたと思います。

それで「パンク先生」として人氣があつた先生でした。教鞭にあつては「三商は、職業訓練所ではない、世界に通じる商業人として」の公民教育の場である」と言われおられたことを思い出します。

「学校で学んだことは社会に出て直ぐに役立つものではない、要は商業人としての素養をしっかりと身につけることである」と説かれておられました。

我々、昭和三十二年に卒業当時第二十四期三年八組を先生が担任となられ、それにちなんで「三八会」と名付けて、毎年三月八日にクラス会を開催しました。昨年まで三十二回開催しましたが、先生は一度も欠席されたことはなく、後年体調を崩され入院中にもかかわらず病院を抜け出してご出席いただいたことがあります。我々が還暦を向かえた時にはお祝いと

して一人ずつ、その性格に合った文字を選んで色紙に書いて額装してお贈りいただき、クラス全員宝物として大切にしています。

お酒が大好きで、あとでご家族にお聞きしたことです。最後までお酒を飲んでおられたとのこと、まことに豪快な人生を送られ、中国を愛し、時に酔うと「万里の長城」の歌を大声で歌っておられたお姿は豪快そのものでした。

卒業にあつては、家の仕事を継承するもの、また就職するもの一人ひとり個々にご指導いただいたこと、家族に対してのお気配りもされて人間としての暖か味を忘れることはできません。まだまだたくさんお話しすることがありますが紙面の都合で書き切れませんが最後に「先生、天からみんなをお見守りくださいますようお願いいたします。」

〒111-0041

追悼

古暮正雄先生(平成十五年八月没) 行年七十六才

自 昭和十九年四月(昭十八・十月卒)

至 昭和六十二年三月

在 三商教員 四十三年間 計四十八年間 在学生 五年間

一生涯、三商教育に尽力 教科、日本史、書道

クラブ、文学部、書道部、剣道部 校門表札、校歌モニュメント

活動(在学中) 剣道東京代表、神宮大会出場

(在職中) 書道、日展六回入選 三商同窓会、事務局長(二代目)

宮脇清自先生追悼文

第十二期 吉岡鶴義

宮脇氏は母校三商の卒業生ではないが、昭和二十九年から昭和四十四年まで、保健体育教諭として、日本体育大学卒業以来十四年間、三商に奉職、多くの生徒が、その恩恵に浴し、氏の人格、人柄に感銘を受けた人であった。筆者よりは日体大、六年後輩になるが、大学新卒として三商赴任の際は、日体大首席で卒業、専門はレスリングだが、万能選手であり、出来ない種目は無いと言う振れ込みだから凄い。出来ないスポーツは無いと言うのは少しオーバーな表現と想ったが、中学・高校時代は器械体操の選手として優秀だったから、私は苦手とする種目だったから、その技は特に輝いて見えた。

当時、我が三商は、戦前を第一の黄金期とすれば、戦後第二の飛躍期とも云える程、学校全体が燃えていた。特にクラブ活動は全盛期で文化部・運動部共にその成果を競い合っている、優秀な記録を残していた。運動部では硬式野球部・バレーボール部・バスケット部・陸上競技部・バドミントン部等の活躍が目立っていたように想う。宮脇氏専門のレスリングは、自身大学時代選手として活躍した経験を生かし何とか生徒に伝えたいと願ったが、屋内競技である為、柔道場・剣道場は使用させて貰えず、仕方なく体育館入口廊下の僅か二〜三坪程のスペースにマットを敷き、練習が始まった。その練習法は凄まじく宮脇氏は一人一人を直接

相手に情け容赦なく、思い切りマットに連続回数叩きつけるのにはビックリした。従って生徒の生傷は絶えず、それでも大怪我はないものかと心配させられた。しかし生徒間の人氣は抜群、少し腕力に自身ある者は続々と入部した。果たせるかな創部僅かにして都大会、関東大会、高校総体、国体に多くの優秀選手を出場させたのである。

とされていた。

昭和四十四年、宮脇氏は都立商科短期大学から招聘され、昭和五十五年同大教授となり、昭和六十三年から平成四年まで同大学学長を二期務め、教育界に貢献した功績は偉大なものであった。

体育学界に於ける活動

学界発表

昭和四十五年、レスラーの体力と運動能力の相関について。(日本体育学界)、その他七点

著書

昭和四十四年、高等学校での体力づくり(講談社) その他二点

論文

平成七年、「われうごく、ゆえにわれあり」商科短大研究論叢、その他一点

レスリング界に於ける活動

レギュラー

昭和三十九年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和四十二年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和四十四年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和四十六年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和四十八年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和五十一年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和五十二年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和五十四年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和五十六年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和五十八年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和六十一年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和六十三年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和六十五年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和六十七年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和六十九年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和七十二年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和七十四年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

昭和七十六年 東京オリンピック、日本選手団コーチ

名誉市民賞

昭和六十三年 財団法人日本体育協会より表彰

平成二年 短期大学教育により表彰 文部大臣賞

平成五年 日本アマチュアレスリング協会より表彰

平成十五年十二月三日 没後、叙勲 正四位 瑞宝中綬章

平成十七年三月、都立短期大学を定年退職したが、その後もレスリング指導第一人者として全国からの招聘に応じて講演活動を精力的にこなした。特に稜子夫人(都立小松川高校教諭)が平成十四年退職してからの八ヶ月間は、夫婦同伴で(股関節損傷により歩行困難、車椅子使用の為)、不自由を物とせず、北は北海道から南は沖縄まで全国への講演旅行であった。この旅行は未だ未だ続けられると居間のカレンダーにビッシリ記入されていた。

これからの第二の人生で夫婦仲よく理想の余生が送れると思われた矢先のことであった。

急性心筋梗塞は自宅居間、夫人の目前でアツと言う間の出来事であったと聞く。

生前の功績から当然と思われる叙勲が直ちに文部省から通知があったと云う。惜しみても余りある人材を早く失った感がある。然し多くの知人、教え子達に残された、宮脇氏の教訓メッセージは永遠に受け継がれて行くものと信じている。心からご冥福を祈ります 合掌

平成十三年十月十三日、都立三商二十五期生同期会の席で宮脇先生は言われました。「自分も入院をしたこと。悪いところは治療し、もうすっかり良くなり、今日もトレーニングをすませてからこの席に駆けつけたこと。この調子で百才を超えるまで生きて見せる!……」と、私達同期生九十余名を前に公言しました。

そのあとの三年六組だけの二次会の席でも同じように「皆で長生き競争だ!……」と言って大いに盛り上がりましたね。確か二次会では百才が百二十才位にふくらんでいたように記憶しております。

残念ながらこの時を以て、私が先生とお会いした最後となりました。

思い起こせば、四十七年前の昭和三十三年の高校生時代のこと。進級時のクラス替えて、私は三年六組に配属となり宮脇先生が担任されると言うことを知り、心の中で「ヤッター!」と秘かに思ったことを思い出します。何せ当時の先生は皆の憧れでもありましたから。そして、この三年六組は先生にとつては最初の卒業生でもありましたね。

先生の指導スタイルは、こまごまとしたことは言わないで、自主性、積極性を重視されていたようでした。それでいて、私達の長所

先生ずい! ちよっと待って!

公約違反です

第二十五期 長岡富市

昭和三十八年国民体育大会五十八kg級、優勝 寺嶋裕三(三商二十期)

昭和三十八年高校総体六十九kg級、三位 佐藤明弘(三商三十期)

その他都大会関東大会での団体戦、個人戦の優勝入賞は記述できない程多数であった。

これらの戦績は総て宮脇氏指導の賜であり、その指導力は畏敬の的

運営協賛金

(平成12.4.1～16.5.25)

期	協 賛 金
4	100,000
5	20,000
6	60,000
7	40,000
8	70,000
9	60,000
10	65,000
11	15,000
12	45,000
13	20,000
14	60,000
15	60,000
16	60,000
17	120,000
19	55,000
20	45,000
21	45,000
22	45,000
24	40,000
25	60,000
26	65,000
28	60,000
29	40,000
34	40,000
支払手数料	- 5,030
利 息	+ 505
計	1,285,475

(内 16年度 30,000)

上記以外の期をはじめ、ご協賛いただける期は、下記口座にお振り込みいただければ幸いです。

(手数料は差し引いてお振り込み下さい)

郵便振替口座 00180-5-388418

都立三商同窓会

このたび8期会より協賛金、金三万円をいただきました。8期会は六頁の記事の通り会を解散され、剰余金を同窓会に寄附されました。これにより12年度より各期にお願いして参りました協賛金は左表の通りとなりました。

先生、覚えていますか、三商祭私達クラスの作品は“宮脇先生特集”でしたね。“写真で綴る先生の生いたち”と“インタビュー記事”の掲載が中心でした。とに

かく評判が良く、多くの生徒が足を運んでくれました。私は先生が、故郷島根県の出雲大社近くの大きな一枚岩の上で逆立ちをした写真を今でも鮮明に思い出します。それに先生のエンゲル係数の高さが大変に話題となり、これではなかなかエンゼルも微笑んでくれず、お嫁さんが見つけれられないのではと皆で心配したのを覚えております。そしてその後、先生は私を含めた数人を連れて、東京駅のステーションホテルの地下食堂に案内してくれて、ご馳走してくれましたね。そこでの先生の食べっ振り、健啖振りを拝見し、妙に納得したことも懐しく思い出しております。

昭和三十三年三月に私は卒業し、銀行に就職しました。そして、どういう縁か昭和三十九年開催された東京オリンピックの主催者側の手伝いを致しました。先生も教鞭を執る傍、学生時代からのレスリングを通じて、ずっと指導者として

十五年度の動き

- ◆第十回東京校歌祭参加 十月四日 於・日比谷高校星陵会館
- ◆OB団体交流会 十一月十五日於・レストラン喜山 参加者 五三名
- ◆理事・評議員新年会 於・両国東天紅 参加者 五二名
- ◆理事会 大小合わせて八回実施
- ◆その他 三商祭見学、野球東京大会応援、評議員不在期へのアプローチ、OB各会・同期会等への出席、理事・評議員への会長名年賀状出状等

十六年度の主な事業

- ◆同窓会報の発行(七月一日目標)
- ◆第十一回東京校歌祭への参加 十月二日(土) 於・日比谷公会堂 参加目標 六十名以上
- ◆同窓会総会の開催 十一月三日(祝) 午前・午後 於・ティアラこうとう 参加目標 一〇〇名以上
- ◆理事・評議員の懇親
- ◆同窓会活性化への対策
- ◆評議員不在期への工作
- ◆同期会開催への助力 他

評議員会報告

- ・五月二十九日(土) 定例の評議員会が開かれました。
- ・出席者 評議員 出席期数21・二十四名 理事十三名
- ・会則変更、事業(報告・計画)、会計(決算・予算)について審議されました。
- ・主な変更事項
- 各期評議員を一名から、二名以内・但し議決権は一期一票とするに変更
- ※評議員の中には、全く返信が無く機能していない方も居られます。今後ご協力をお願い致します。
- ・学校行事への参加、部活動等への応援
- 尚、理事に女性の登用を決め、今回二名の方を選出しました。

15年度会計報告
(平15.4.1~16.3.31)

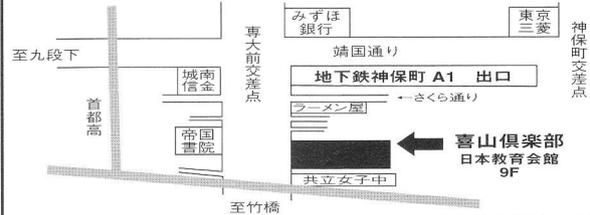
収入の部		
前年度繰越金		10,245,489
会費 (7,000×164人)-手数料		1,147,160
運営協賛金		30,000
運利息		571
		11,423,220
支出の部		
理事・評議員会		245,508
OB団体交流会		67,210
校歌祭報費		171,134
同窓会		344,740
慶弔運営費		57,274
事務局運営費		150,000
母校活動支援		0
就職活動支援		67,200
通信費(一般分)		30,020
事務費		87,236
支払手数料		9,205
次年度繰越金		10,193,693
		11,423,220
平成16年4月13日	会計	辻 正 巳 印
	会計	土 方 敏 之 印
	監事	鶴ヶ谷 義 徳 印

校歌祭のご案内

日時 平成16年10月2日(土) 午後2時集合
 日比谷公会堂前 到着したらまず受付へ
 出演時間 午後3時20分(予定)
 服装 紺系 ネクタイ着用
 終了後 銀座インズII2F TEL 03-3561-3427
 アサヒスーパードライ有楽町店で反省会
 会費 ¥3,000 (30名迄)

リハーサル
 と き 9月18日(土) 午後6時~8時30分
 と ころ 日本教育会館内9F
 リンケージルーム使用
 ビール、お酒、料理 レストラン喜山(きざん)
 ¥2,000 (TEL 03-3262-7661)
 会 費 校歌、応援歌練習

交通
 日本教育会館 千代田区一ツ橋2-6-2 神保町駅

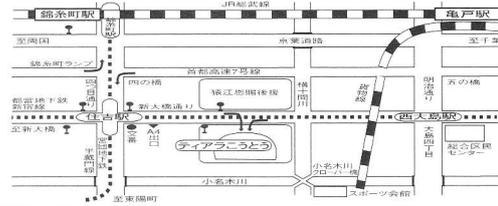


16年度会計予算
(16.4.1~17.3.31)

収入の部		
前年度繰越金		10,193,693
会費 (7,000×160人)		1,120,000
運営協賛金		400,000
利		500
		11,714,193
支出の部		
理事・評議員会		250,000
総会(収支差額)		500,000
校歌祭報費		180,000
同窓会		450,000
慶弔運営費		100,000
事務局運営費		150,000
母校活動支援		200,000
就職活動支援		100,000
通信費(一般分)		30,000
事務費		100,000
支払手数料		5,000
活性化活動費		100,000
次年度繰越金		9,549,193
		11,714,193

都立三商同窓会総会

日時 平成16年11月3日(祝)
 第1部 午前10時30分より 在校生によるアトラクション
 第2部 午後1時より 総会・現況報告等
 第3部 午後1時30分より 懇親会
 場所 ティアラこうとう(猿江恩賜公園・江東公会堂)
 江東区住吉2-28-36 TEL 03-3635-5500
 会費 5,000円
 交通 地下鉄「住吉駅」A4出口から4分
 都営バス「住吉駅前」5分・「江東公会堂」1分
 〒133-0056 江戸川区南小岩7-38-11
 都立三商同窓会事務局 中野 貞 三
 TEL 03-3658-6341 FAX 03-3658-6340



編集後記

◆ 昨春より事務局を引受け一年経った。

◆ 今迄同窓会にあまり縁がなかったで、勝手が判らずいろいろ試行錯誤でやって来たが、引受けたからにはとことん納得の行く迄と、あれこれ無い智慧を出して来た。

◆ 評議員のいない期を埋めること、評議員の方に出てきてもらうこと、どうしても出来ない方は代わってもらおうこと、代わる人がいないところは地道に探すことをして行きたい。

◆ それが次の世代、次の次の世代へのバトンタッチとなり、同窓会が存続する道だから。……我々も先はそれほど無い。

◆ 会長の発案で先輩も後輩も平等に、和やかに付き合える会にと、昨年からの総会のない年にOB団体交流会を行うことにした。他に良い案を皆さんから：待っています。

◆ 最高議決機関である評議員会は、実のある会議とする為、理事会より提案する議決内容を事前に送付し、当日は無駄のない活発な意見交換をする。今年から実施したが未だ未だ不十分。年々向上を図りたい。

◆ 古暮先生、宮脇先生と立て続けに名物先生が逝去された。往時三商の教育に多大な功績

のあった両先生に改めて哀悼の意を。

◆ 同窓会の基盤は母校にあり。学校行事等に極力参加して今の学校を知ること大切。これからの会員は学校にいます。だから。

◆ その後輩達が伸び伸びと学校生活を送れる様に出来るだけの事をした。そういう事を今年の予算に盛り込んだ。

◆ 同窓会報記事原稿募集

原稿は常時受け付けます。会報掲載の締切は毎年四月末です。七月一日発行を目指しています。四月初めには印刷の作業に掛かりますので早めにお出し下さい。

原稿用紙二〜三枚程度で写真はその中に収めて下さい。成るべく多くの期を掲載したい。若い世代の投稿歓迎。

◆ 送り先 〒一三三〇〇五六 江戸川区南小岩七三三八一十一 都立三商同窓会事務局 中野 貞 三

◆ 電話〇三三六五八―六三四一 FAX〇三三六五八―六三四〇

◆ 住所変更等連絡事項も同所へ。

◆ 同期会開催の情報もご連絡を。

